

Group 3

**Utilization of low-utilized spaces
by experimental methods**

Urara TAKASEKI, Koyo SUYAMA, Keisuke NAGASUE,
Ryoya MIYAGISHI, Chihiro MIYAMOTO

問題意識 Problem Awareness

- 駅東側の賑わいが物足りなく感じる

Lack of bustle on the east side of the station

- 市街地の空洞化

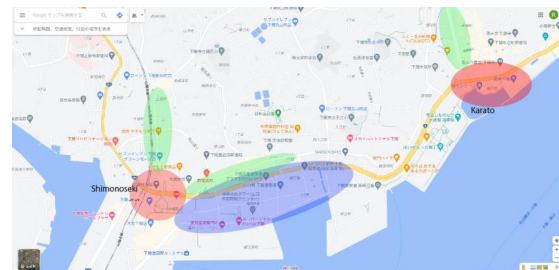
Hollowing out of the city

- unoccupied houses
- low-utilized places

Acheivement

歩行者にとって魅力的な空間を創出する

To create attractive place for **pedestrians or cyclists**

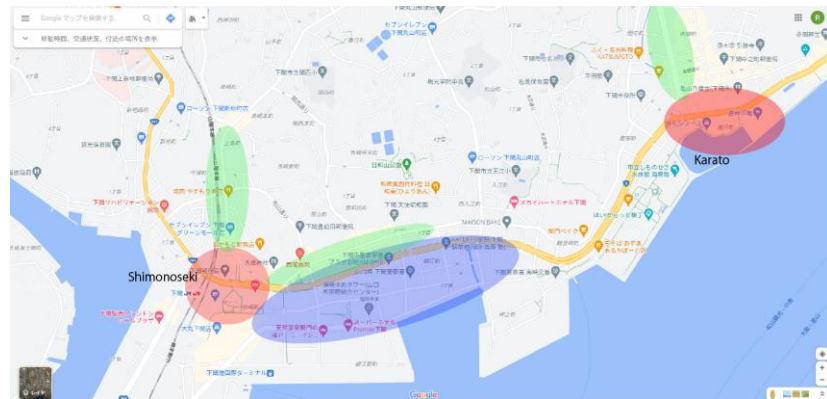


対象エリア Target Area

Red areas :

▶人流の中心となるエリア

The center area of human flow



対象エリア Target Area

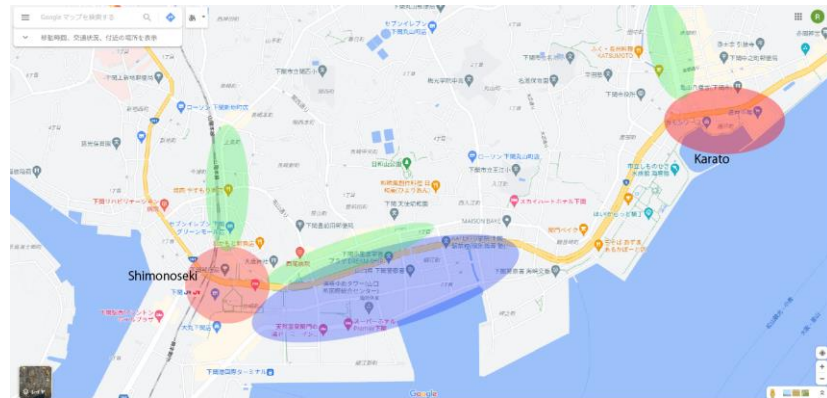
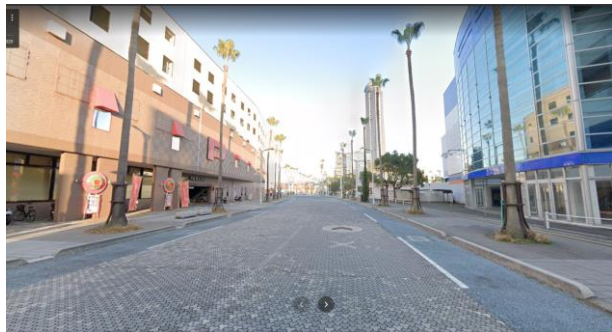
Blue areas :

▶下関一唐戸を結ぶ道

The road between Shimonoseki and Karato

▶駐車場やゆめタワー等の低利用地

Low-utilized places or many parking lots



対象エリア Target Area

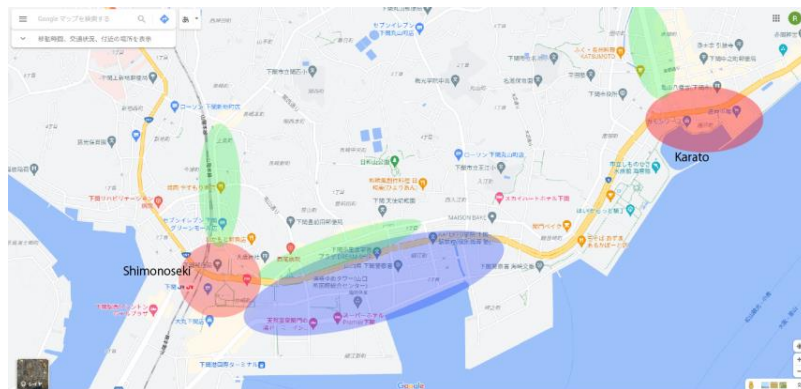
Green areas :

▶古い商店街

Old shopping streets

▶空き家や老朽化した建物

Many unoccupied houses and aging buildings



提案 Suggestions

- ▶自転車利用や歩行者空間の充実

Enhancement of cycle trip system or walking space

- ▶タクティカル・アーバニズムを用いた低未利用地の活用

Utilization of low-utilized land using **tactical urbanism**

→いくつかのポテンシャルのあるエリアを選定し、活用法を考える

Select several areas with potential and suggest the new way to use it

タクティカルアーバニズム Tactical Urbanism

地域の抱える問題意識に対して、数時間・数日間の、公園や広場レベルでの小さな社会実験からスタートし、フィードバックと関連主体の拡大を繰り返しながら、都市に長期的な変化をもたらそうとする考え方

- ・はじめは低予算かつ短期間のプロジェクトから始める
→リスクが少ないかつ、具体的な効果をもって示すことで、より多くの人々の関心や今後の資金の獲得につながられる

- ・誰もが利用できるが、あまり活用はされていないような場所を、魅力あり人々の交流の場となるような空間にする
→市街地内の空き地や公園、道路脇や駐車場などが対象となり得る

- ・都市についての問題意識に基づいての行動であるため、実験プロジェクトの結果を踏まえた規模の拡大を重ね、最終的には街並み・都市空間レベルでの変化を目指す

事例①：東遊園地（神戸市）



長らく神戸の中心地に位置していたが、無味乾燥の砂地の公園であった場所
→URBAN PICNICと題して、公園を潤いある場所とするために、天然芝と仮説の屋外ライブラリやカフェを整備、お昼時以外でも賑わいがある場所に変化

(左上) かつての東遊園地
(右上) URBAN PICNIC実施後の東遊園地
(左下) 計画中の公園再整備案



そうした成果を踏まえ、隣接する市庁舎と合わせた再整備案が始動、都市の中で公園がより重要な場所となった

事例②：あそべるとよたプロジェクト：豊田市

中心市街地再整備に合わせて、街中に賑わいを取り戻すための公共空間活用を複数敷地で実施

ペDESTリアンデッキ上でのカフェの営業や、広場と公園の利用促進のためのプロジェクトを、社会実験レベルからスタート。市街地全体の再整備計画の中で、これらの地区活用を行政計画に位置づける



候補地 Proposed sites



海峡ゆめ広場と周辺道路 Kaikyo Yume Square



海峡ゆめ広場 URBAN PICNIC 社会実験

対象敷地選定理由

- 非イベント時には閑散としているが、人通りの多い下関一唐戸間を結び広い敷地を兼ね備えた好立地であり、周辺地域の人通りを生み出すポテンシャルがある
- ゆめタワー内のテナントの従業者や観光客、海峡メッセ利用者の集う場の足元にあり、利用者がある程度期待できる

提案趣旨：URBAN PICNIC

- 目的：近隣に少ない公園の機能を担い、周辺の人通りを活発にする
- 短期実験：原状復帰しやすい多様なファニチャーを配置し、「滞留空間」の創出をはかる
- 長期ビジョン：カフェ機能を備えた店舗を誘致しPark-PFI制度を用いた運営



海峡ゆめ広場 URBAN PICNIC 社会実験

STEP1 : 短期的社会実験

- 山口県や一般社団法人山口県国際総合センターに許可をもらって貸してもらい、企画・運営
- 仮設店舗を設置し、地元の飲食店を短期間誘致する
- 社会実験を行う旨をあらかじめ地元住民（利用者）に告知
- 芝生やベンチ、チェア、ハンモックといった多様なファニチャを設置し、利用者の様子や人流を観察・計測
- レンタサイクルや仮設自転車レーンの設置をし、自転車利用者数の変化を計測
- STEP 2以降に協力してくれる主体（大学など）も探す

STEP 2 : 長期ビジョンへの転換

- 地元住民（利用者目線を持った参加者）やまちづくり関係者（NPO?会社?）を招き、社会実験の結果をもとにしたワークショップを開催し、課題の明確化、実現したい空間のビジョンを策定
- 必要に応じて社会実験を修正し開催する

海峡ゆめ広場 URBAN PICNIC 社会実験

STEP 3 : 持続可能な運営体制の構築

- 必要性に応じてテナントを誘致し、Park-PFI制度を活用した広場の維持管理体制を構築
- 地域住民の望む空間のために必要なファニチャーを常設化する

疑問点

- 企画運営する主体をどうするか？
- 声をかける企業をどうするか？
- 東京大学の研究室合同PJTとして動かす？

気になること

- ゆめ広場周辺の人流の実態

姉妹都市広場付近 社会実験

対象敷地選定理由

- 訪れた際に閑散としていた
- 隣接する駐車場の広大なスペースが活用できそう
- 唐戸の観光客を呼び込み滞在を促すポテンシャル
- 海沿いの公園という好条件
- ONEDAY Picnicという民間アーティスト主導のイベントが行われている



姉妹都市広場付近 社会実験

提案趣旨：案①ウッドデッキの充実

- 目的：海沿いに対流空間を作り、唐戸への観光客の満足度向上を目指す
 - 短期実験：
 - ウッドデッキにベンチなどの設備を置く
 - フグのバルーンを海に浮かせる
- ⇒ 唐戸市場に観光に来た人の対流空間を創出
- ワークショップなどを行い観光客目線での需要を探る
- 長期ビジョン：観光客が求める唐戸の@ 1 を段階的に作り出していく

姉妹都市広場付近 社会実験

提案趣旨：案②アート活動の実験場

- 目的：広い土地を活かし地元住民も観光客も楽しめる空間を作る、姉妹都市ひろばを普段から楽しい場所に
- 短期実験：姉妹都市ひろば・ウッドデッキ・駐車場といったところにアート作品を展示し人が集まるか実験する
- 長期ビジョン：民間のアイデアで作っていく唐戸の新しい観光地
- ONEDAY Picnicに参加するアーティストや芸術コースのある大学の学生の参加を促し、身近なアートの展示場として人が集まる場所を目指す

疑問点・気になる点

- 現状把握が必要
 - イベント間隔
 - 人流量
- 姉妹都市ひろばの姉妹都市との関連性の調査

今後

What to do next ⇒

- To discuss **specific utilization methods**
 - main users (tourists / locals), contents, access...
- To search for the owners or associations involved with the proposed sites and decide **to whom we make suggestions**

参考

タクティカル・アーバニズム: 小さなアクションから都市を大きく変える

泉山墨威ほか 学芸出版社 2021年

プレイスメイキング: アクティビティ・ファーストの都市デザイン

園田聡 学芸出版社 2019年

Thank you for listening !